

# 第4回総合計画審議会での議論

**(日時)** 令和2年7月30日(木) 午後6時30分～午後8時30分

**(会場)** 袋井消防庁舎・袋井市防災センター3階 研修室

**(内容)**

第2次総合計画「後期基本計画」(素案)協議

(新型コロナウイルス感染症のもたらした社会や人の暮らしへの影響をどのように計画へ反映していくか)



**(意見等)**

- 日本一健康文化都市など、目指すべき持続可能な視点を持てば、特別なコロナ対策を計画へ追加する必要は無いのではないかと。また、コロナ禍の中でも市事業の成果を下げないためには創意工夫(変革)が不可欠。
- ICT教育推進は急務だが、教育格差を防ぐには子どもがデジタルツールを常時安全に使える環境が必要。
- リアルな価値が大きく見直されている。リアルとリモートの使い分けが一つのポイント。人間らしい活動、文化やスポーツ等の感動、体験等の喜びの価値は高まっていく。教育でもリアルな体験を通じた学びが大切。
- 感染拡大防止の徹底、医療崩壊防止が最重要。その上で感染状況を踏まえ慎重に経済に軸足を置くべき。
- 個々が他人を思いやりながら、日々の暮らしを一生懸命健康に生きる、その一つひとつの積み重ねが、新しい仕組みや今後の発展につながる。持続可能な考え方・価値観を市民皆で共有することが大切。
- 物心両面でバランスのとれた健全な社会の構築、グローバルに目を向けながら、多様性と人間力を醸成する教育の仕組みが必要。経済に目を向けるだけでなく、教育、人の部分に目を向けていくべきではないか。
- 今後は地域主体での取組が中心となる。身近で相談などができる場所に加え、外国人等へのサポートする仕組みが大切ではないか。また、地域の健康づくりでリモート活用を進めるべきだが、実施には工夫が必要。
- 個々が自分の健康をしっかりと確認できるかが、今後の長寿社会や健康増進を考える上で必要。それをデータで共有できることが、生涯活躍や多様な人と暮らす中で相互の信頼を担保することになるのではないかと。
- 本気でDX(デジタル変革)に取り組めば、人的なリソースを組み合わせることで地域で何かを創り出せるのではないかと。地域で共創する仕組みを政策として組み合わせると、市でその力を活用できるのではないかと。